支援教育部ニュース

第１５号
令和３年２月発行
発行：八尾支援学校
文責：藤田・谷澤

令和2年度　支援教育地域支援整備事業中河内ブロック　ブロック研修会　報告

１月７日（木）に中河内ブロック各市の教職員、府立支援学校教職員を対象に中河内ブロック研修会が行われました。現在のコロナの状況を鑑み、Zoom によるオンラインおよびオンデマンドの形態で実施しました。

今年度は関西国際大学の中尾繁樹教授にご講演をいただきました。豊富なエピソードを交えた中尾先生のお話に、すべての教師が自立活動に取り組む上での必要性をあらためて実感できた研修会となりました。

「特別支援教育における自立活動の在り方」

〈基本的な考え方〉

自立活動の「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」を、通常の学級の授業に取り入れることにおいて、すべての子どもが対象になり、楽しく参加できる授業作りができる。

→自立活動はすべての子どもたちに必要である。

〈特別支援教育の視点とは〉

・授業づくりにおいて、特別支援教育が大切にしていることは「個々の子どもの実態把握から、授業をどう作り、どのように展開したいかを考え、授業の中でどんな力をつけたいか」ということにつきる。

⇒実態把握とねらいの明確化

・障がいの有る無しに関わらず、一人一人の実態を客観的に見極め、学び方の違う全児童・生徒に対して、学級づくりや授業の中でどのように支援するかということになる。

⇒ワクワクするドキドキする授業

・教師は、子どもたち一人一人のニーズを受けとめ、人間として成長・発達を促すことが大切になる。

⇒限られた子どもだけの個別指導ではない

・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりがとても大切になる。

⇒特別支援教育の視点とは…実態把握そのもの

〈子どもの何を見るのか〉

目に見えている「できないこと」に目を向けがちだが、その背景に注目することが大切である。目に見えない部分を把握し、その原因にアピールする。

＝自立活動の視点である。

参考図書

著書『特別ではない特別支援教育』（明治図書）

共著『特別支援教育の理論と実践』（金剛出版）など